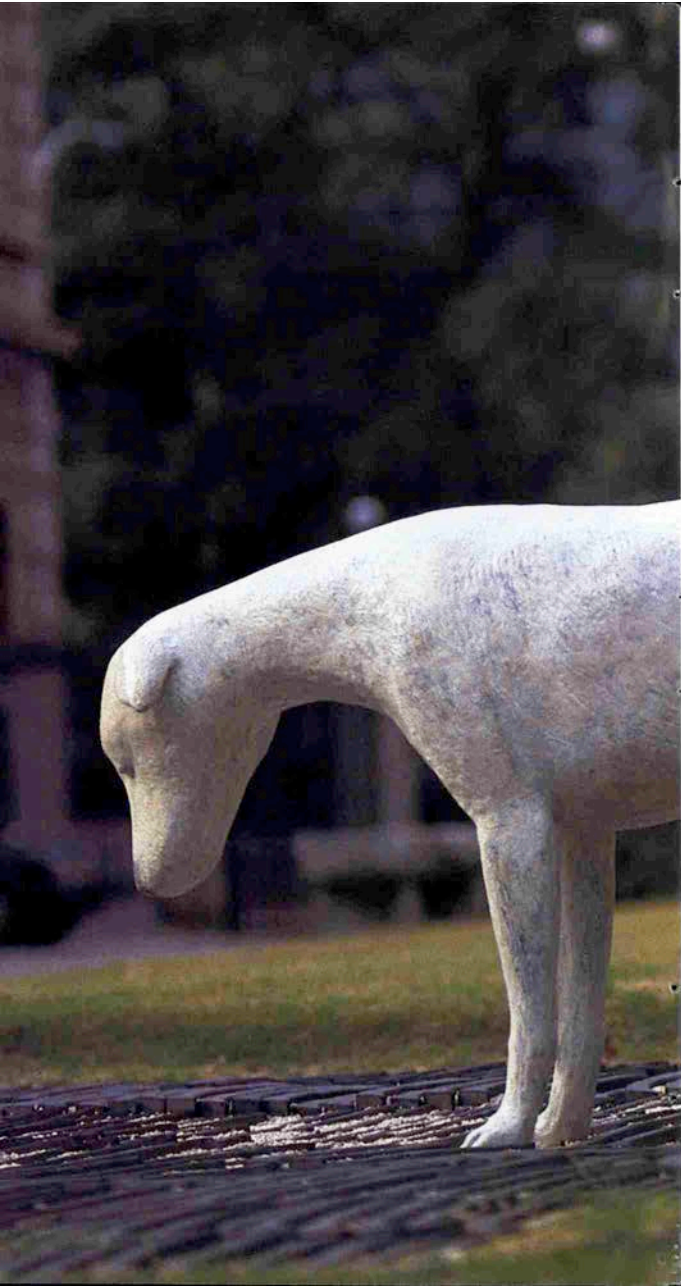




# 神戸新景

No.  
12

P  
小山  
保



美

酒俱樂部

# 喜兵衛

神戸市灘区永手町4

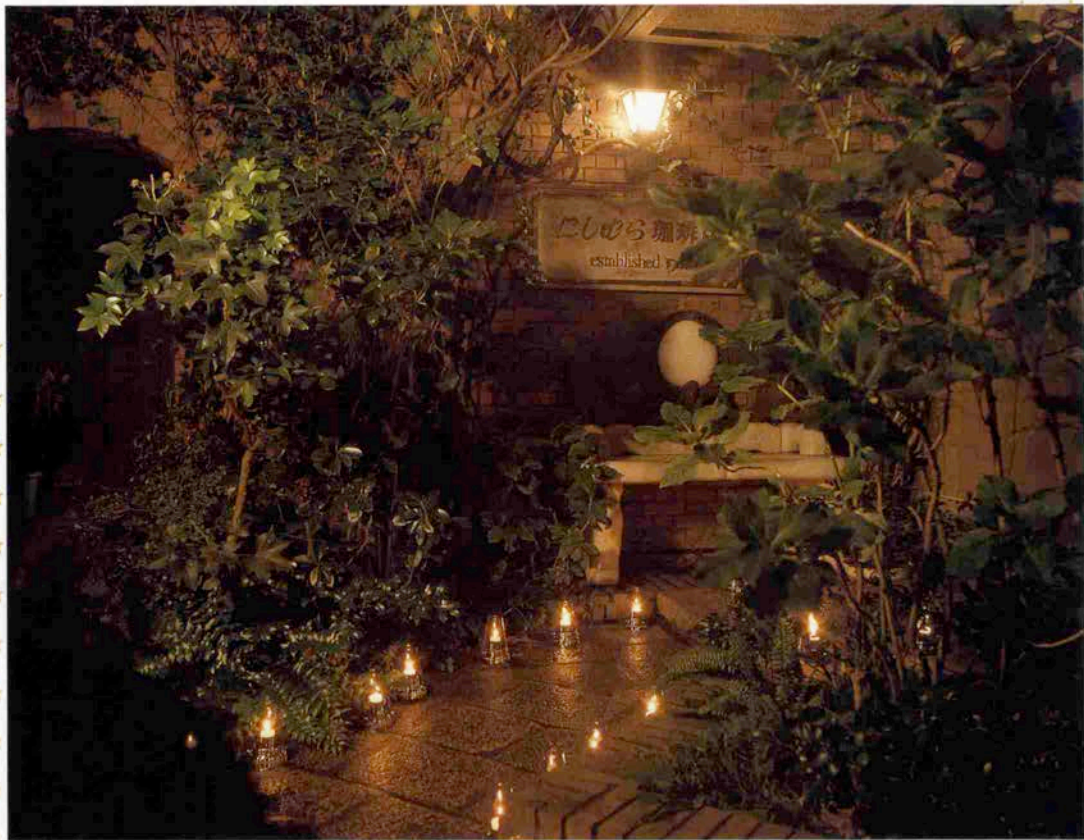
喜兵衛北野店一神戸市

聖なる夜に



Flan aux fruits de mer 海の幸のフラン  
Sauté de canard aux pommes au four 鴨胸肉のソテー、焼林檎添え  
Huitres au Champagne 牡蠣の蒸し物、シャンパーニュ風味  
Crabe et Turbot haché, sauce aux truffes 蟹と平目のアッシェ、トリュフソース添え  
Granité au cidre 林檎酒のグラニテ  
Filet de bœuf a la paysanne 牛フィレ肉の田舎風  
Gâteaux Noël ガトーノエル  
(税サービス料込み) Cafe 珈琲 ¥13,000

シエラメールからの贈りもの



フランス料理

## シエラメール にしむら

神戸市中央区山本通2-1-20 TEL 078-242-2467

クリスマスメニューは22日(木)～25日(日)。

尚、お昼(11:30～14:00)は特別メニューの他に、ミニクリスマスメニュー(¥7,000 税サ込)もございます。年末は12月28日(水)まで、新年は1月5日(木)から営業いたします

# THE FANTASY CHRISTMAS IN KOBE

贈るシーンを素敵にしたい。

贈って、贈られて……。それはクリスマスのいちばんときめくシーンです。リボンをほどくときのあの一瞬を、もっと感動的にしたいから、ひとつひとつに思いをこめて、さあ、あの人への贈りものを選びましょう。



- こんなに優美なバッグならパーティで自慢したくなる。
  - ルノー・ベルグリン／ハンドバッグ…98,000円
- 1階ハンドバッグ売場

- この一枚に物語があるエルメスのスカーフ。大人から大人への贈りもの。
  - エルメス／スカーフ……30,000円
- 3階エルメスフティック



別にドレスアップさせて。  
リボン 80円・ラッピングボックス600円

年内休まず全館7時まで営業



DAIMARU KOBE

電話(078)331-8121



- ことしの思い出にしたいプレートです。
- アラビヤ'88クリスマスプレート(限定30枚) 20,000円
- 5階ワールドプレステージ

- アメリカントラディショナルを愛する彼にこそ。
- ポロ/プレイヤープリントシャツ各23,000円・ベルト 7,000円
- 4階クラブハウス



- かわいいレディに、かわいいシューズを。
- アツキオオニスリーブング/ルームシューズM/L 4,800円
- 5階アツキオオニシ ショップ



ひと光る神戸です。

- 贈りものも、この日ばかりは特別
- ラッピングペーパー180円・
- 6階ラッピングハウス

「すてきね」と誰かが言った。  
きらめく余韻がいまも心に……



DAY…

恋人たちの夢

海を見ながらおしゃれにブライダル。

白亜の夢館

見なれた人々が初めて出会う人のように

すてきに演出。

NIGHT…

ナイトツリー

幼き頃の夢が、いま目の前で

語りだす。

御結婚披露宴・  
各種パーティー

好評予約受付中



ポータルライナー中埠頭駅前  
(ゴープル白いチャペル前)



ゴープル ポートピア88  
神戸 且月堂 港島

〒650 神戸市中央区港島中町7-2-2 ☎(078)302-5555

ミナトニ ゴープル



これは神戸を愛する人々の雑誌です  
 あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
 神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
 これは神戸っ子の心の手帖です。

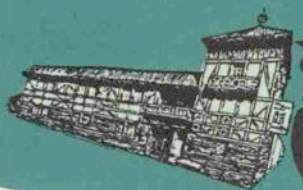
## 12月号目次 ●1988・No.332

- 表紙/小磯良平  
 セカンドカバー/西村 功  
 9 神戸っ子'88/梅岡みちこ・渡辺康雄  
 12 ある集い/キングクレゾール・M・D・G TANPOPO  
 15 神戸スナップ/第2回“国民文化祭”ひょうごで開く  
 16 美の小箱/宮崎 豊治・文・増田 洋  
 18 神戸新景/小山 保  
 29 わたしの意見/不破 隆  
 31 随想三題/立花江津子・山口一夫・元正章  
 34 地域文化論/嶋田 勝次  
 36 連載エッセイ/私の旧留地物語・林田 重五郎  
 38 トランペット片手にブラジル人歩き(15)/右近雅夫  
 40 神戸美術夜話/山野英嗣  
 42 経済ポケットジャーナル  
 44 特集【I】座談会/シネマとジャズとそして神戸  
 淀川 長治・末広 光夫・瀬川 昌久  
 52 特集【II】神戸ジャズエッセイ/今崎 陽吉・安藤 義則  
 56 都市計画=①神戸発都市文化の創造/小泉康夫  
 の日記念 ②街づくりトークイン「市民が描く未来都市K O B E 像」  
 フォーラム 東充・有村桂子・神戸一夫・木下佳通代・園本喜之・小宮容一  
 64 キャンペーン座談会/「ニューリーダー神戸」杉本勇和次・岩佐達道  
 福原 豊・小川国孝・富永敏男・河南比呂子  
 70 話題のひろば (I)コウベグルメフェスタ  
 (II)木下真珠50周年を迎えて  
 (III)ナチュラルハウス  
 76 ファッションスポット  
 84 神戸のお嬢さん/森内智津子・永野みどり  
 86 ファッションウォッチング ネオ・モダメルヘンPART II/篠原順子  
 88 ふたたびプロフェッサーPの研究室/岡田 淳  
 121 コーヒーブレイク  
 122 動物園飼育日記 (216) /亀井 一成  
 128 やあ神戸っ子(12)/立岡 佐智央  
 132 話題のひろば(IV)第11回美術家野球大会  
 134 神戸の集いから  
 136 K F S ニュース  
 138 神戸を福祉の街に/サルビア・ディホーム・橋本 明  
 140 出会の旅/砂漠の虹・岡田美代  
 142 百店会だより  
 144 有馬歳時記  
 146 猫じゃらし/ラッキー橋松  
 148 モダンカルチャー  
 150 シネマ試写室/淀川 長治  
 152 びっといん  
 154 ポケットジャーナル  
 158 美男インタビュー/鏡川忠臣蔵・大星由良之介の近藤正臣さんを訪ねて  
 162 小間三平の神戸探検/ライヴ、ツアーに夜は更けて  
 167 神戸っ子倶楽部会員情報  
 182 12月幸運の星占い/長田垂弓  
 184 一千一砂物語/大月 雄二郎・銅版画イナガタルホ  
 186 海船港/瀬戸内フルージング“銀河”/かどもとみのる

絵／松原政祐

カメラ/米田定蔵・池田年夫・松原卓也





エキゾチシズムが漂う  
「ニュー・トーキョー」元町店が  
今、甦る——。  
レトロにしてモダン  
エキセントリックなロマンとの  
出会いの始まり。

風見鶏がみた夢物語は  
何だろう。

# 忘年会・新年会 予約承ります



ウエル  
①Fビアホール「WELL」  
「樽から生まれたてのビールは、最高だぜ!」  
「自慢のチムニーロースター料理も最高だぜ!」  
笑顔と会話がいっぱい。さあ、仲間が揃ったら  
“カンバイ”しようぜ——。  
●営業時間(平日)11:30a.m~ 2:00p.m.  
4:00p.m~11:00p.m.

②F居酒屋「さがみ」  
「とれたての魚って、  
舌にとろけるみたいでおいしい。」  
「熱燗片手に、旬の日本の味って、  
やっぱりうまい。」  
明石港直送の海の幸や、野や山の幸、  
旬の串やきを民芸調の雰囲気の中で  
存分に。(個室もご用意しています)。  
●営業時間(平日)4:00p.m~11:00p.m.

③Fパティールーム  
●洋室15~50名様用  
和やかな各種ご宴会、ご会合  
などお気軽にご利用くだ

ご相談・ご予約はお気軽に 078-391-4511

神戸元町「1-1-1」-

TEL 078(391)4511(大代)

# GIFT & PARTY X'mas

メリーヒル  
ゲルラン  
ボンフカヤ  
シス

ルーブル・  
ブライダルサロン

ダイアナ  
オフ  
クロードレマ  
タカノ  
ココ山岡  
三愛

キャンディッド・マス  
メイソングレー  
フォーセツト  
ベネトン  
ラッキーズ  
キャメルカンパニー  
イーストボーイ  
靴下屋  
フェアリー  
チャイルドウーマン  
リップスター  
ペイトンブレイス  
ヴィフ  
バブルチザン  
クレヨン  
マリータウント

アラブグレッツ  
トウエンティワン  
ミシュ・エタム  
Aug  
リーフノット  
アトモスフェール  
ヴィッキキー  
カボ  
キャトルセゾン  
ハウスオブローゼ  
花王ソフィーナ  
ワコール  
トリシア  
ラバブル  
ミセラン  
シエル

MERRY  
MERRY  
CHRISTMAS

FASHION PARK

神戸・三宮、さんプラザ2・3F  
センタープラザ3F  
営業時間 am 11:00—pm 8:00  
PHONE— 078・332・1698

プレゼントも夢かしら……



 **MAC**  
SINCE 1895 KOBE

本部/中央区三宮町1丁目6-22(ニューセンター7F) (078) 392-1651

三宮本店/三宮センター街 (078) 391-0895  
プレザージュ/トアロード (078) 391-0896  
ドルチェマック/三宮センター街 (078) 332-0141

京都店/藤井大丸2F (075) 211-0857  
姫路店/FESTA 2, 3F (0792) 89-4738  
宝塚店/宝塚南口サンビオラ3F (0797) 71-4830

クリスマスプレゼントは  
MACの  
ゴールデンパッケージ。

☆私の意見

# 神戸の町に もっと

# 文化施設を

不破 隆

△朝日新聞神戸支局長▽



私は神戸というまちがとても好きなんです。神戸という独特な香りが肌に合っているようにも思えます。忙しい日々ですが、少しでも時間に余暇ができたときなど街に足を運んでは楽しんでいる一人です。神戸で仕事をするのは今回で二度目、一度目は若い記者の時代で三年間ほどいました。まる十八年ぶりに戻ってきました。そして、早くも二年を過ぎました。あつという間で神戸を訪れる人々に「神戸のよさ」を宣伝しているのですが、文化的な施設をもっとつくって欲しいという投書や声をよく耳にしますので。そうかなあと思うて文化施設の現状をみると、県立美術館があっても市立美術館がなく、市立の博物館が美術館的な役割をしている。さらに県立図書館がありませんね。また、神戸文化ホールがあっても中途はんばでわずかな人しか入れません。千八百人収容の神戸国際会館もいまや古くなってしまいました。そのうえ、四一五百人入れる、いわばアマチュア劇団が気楽に利用できる劇場もないのです。どうして人口の割合に比べて文化施設が少ないのか疑問に思う、と首をかしげている人たちが多いのです。いろいろな催しを神戸でやりたいと願っている人たちが相対いらつしやるのですが、場所がないために「やあ残念だ」とあきらめてしまう国際的な催しのケースも私知っているだけで、かなりあるのです。ごく最近では、三年前にシヨパン国際ピアノコンクールで一位になられたソ連のピアニスト、ブーニンさんは「神戸でぜひリサイタルをしたかったのに施設がなくて」と神戸をす通りして姫路で十二月に開くことになったそうです。こうしたひとつの話を聞くにしても残念でなりません。国際文化都市神戸の名に恥じないような文化施設をどうか早く次々つくって頂きたいですね。私は思うのです。神戸のよき香りを一人でも多くの人に知ってほしいなあーと。間違ってもらいたくないのは、外見だけでなく中味のともなった香りということなのです。今年もあとわずかになりましたが、どうかよいお年をお迎え下さい。(談)

クリスマスパーティの装いに



ご婚礼・お衣装・お仕事



美容室 **エリザベス**

本店／神戸市中央区三宮町  
2-6-4 三上ビル  
TEL 078-331-8894(代)

フォーマル&ウェディング  
レンタルブティック

三宮店／TEL078-331-3258  
岡本店／TEL078-413-0448

こんにちは赤ちゃん



あいな  
吉田愛菜ちゃん／大阪市東成区

「女の子でーす!」

完全看護★冷暖房完備★病院前公共駐車場有

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大栴町1番18号  
芦屋保健所東隣

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表



ステインドグラスは元来、それ

を見る人に語りかける事を意図して考え出された窓のことである様に思う。ステインドグラスらしい形で文献が現存する九世紀頃からロマネスクを経てゴシック建築の中で開花したステインドグラスは十五世紀頃までが一番それらしい姿を留め、美しいものが多い。そしてなぜかしらやさしく暖いのである。ヨーロッパ中世に於て、無学で字の読めない人々でも教会堂に入って窓を見上げるだけで神のこと、聖書の話、聖人たちの伝記、教訓的な話から各ギルドのコーシヤルまで知る事が出来た。

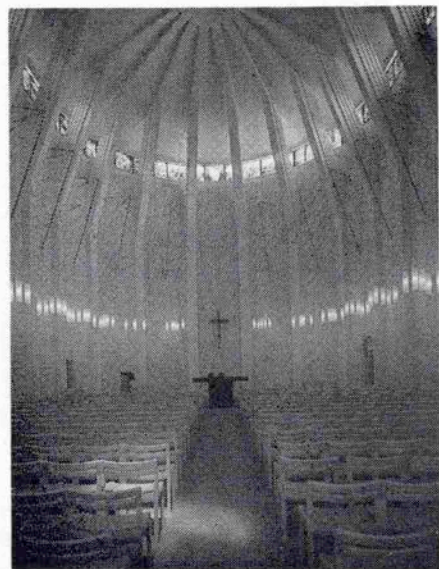
それは人々にとって理解し易く、心を捕えて離さない不思議な魅力を持っていた。窓が手を差しのべて人々に語りかけたからである。見つけていると色つきの美しい光に包まれてその窓の世界にすっと入って行けた。ステインドグラスは唯の風よけ窓や装飾ガラスの窓ではないのである。

ヨーロッパでは現在でも建具のような装飾ガラスとステインドグ

ラスは、はっきりと区別されて製作する人も見る人も区別して理解している。日本の現状のように素材としてガラスブロック、鏡、石などを使用したり、鉢植からランプシェード、装飾ガラス、ガラス絵までもひっくりくるめてステインドグラスとは言わないのである。色や形の面白さだけを追求したのもや色紙細工のようなガラスがつかないあわされたもの、ただ何が描かれているだけのもの、これだけではステインドグラスとしては足りないものである。

現代の建築

物の空間にはめこまれたモダンなテーマのステインドグラスであっても、やはり中世の人々が仰ぎ見た窓のように、何か語りかけてく



松蔭女子学院大学チャペル

い。窓は宗教的なものに限らず現代のあらゆるものがテーマとなり魅力的なステインドグラスとなり得るのである。又素材や技術、表現がある意味で限られているからこそステインドグラスと言えるのだと思う。

ステインドグラスは光との対話、語りかけ、又それに答えるやさしい芸術なのである。そのやさしさの中で日々仕事が出来る幸せを感じるこの頃である。

# 赤穂義士雑考

山口 一夫

〈兵庫日産自動車株式会社代表取締役社長〉



「兵庫の生んだ、民族の英雄、赤穂義士四七士」と素直に言っただけだろうか、という疑問が、私にはあった。元禄太平の夢を破り、世を震撼させた義拳の当時、赤穂藩の藩士約三六〇人の内、かなりな藩士が播磨国以外の諸国よりやってきた筈である。生国を、播州とした義士は何人いたのであろうか？

赤穂義士に関する書物、資料は多くの史実研究者によって世に出されているので、この点についての資料を探すのは、さほど、困難ではないと考えた。が、意外にこれがなかった。大石内蔵助など、特定の義士については、記述されたものはあったが、四七士全員の生国を記述したものは、どうしても見当らなかつた。そこで地元の大石神社さんに相談したところ、ここにあった。

同神社宮司、飯尾精氏が編集委員長になっておられた赤穂義士事典刊行委員会が発刊された「赤穂義士事典」に正確な記述があった。生国は次の通りであった。播州赤

穂を生国とするものは、大石内蔵助をはじめとし、二二名、播磨一名、美作四名、笠間三名、近江国二名、奥州二名、江戸一名、志摩一名、名古屋一名、越後一名、生国不詳九名。

約半数の義士が、播州赤穂を生国としている。また播州赤穂という土壌の中で培われた武士道が、見事に花開いたのであれば、生国にのみこだわることはないであろう。まさに、赤穂義士の義拳は、

兵庫が生んだ快拳であった。さて、武士道の華と讃えられた義士自身は、誠に本懐の至りであったと思うが、この、男たちの意地を支援し、これを果さしめた、私たちの哀しい立場は、戦さ場いきらりと光る朝露のように、心うつものがある。

浅野家譜代の臣、間嘉兵衛光延は、長子十次郎、次子新六と共に、義拳に加わった。嘉兵衛の妻は、夫と、息子二人を一度に失い、四人の娘をあとに残された。「赤穂義士事典」に次の様な記述がある。

「元禄一五年六月一八日、京都本圀寺で、小野寺十内の妻、丹が死んだ。丹は、一挙で、夫十内、養子幸右衛門をはじめ、幸右衛門の実兄、大高源五、甥にあたる岡野金右衛門を一度に失い、さみしさに耐えられなかつたであろう。」まことに、哀しい妻たちの記録である。



公演中の「雄川忠臣蔵」の一場面

ドンキホーテに祝砲  
(ロドニー賞を受賞して)

元 正章

△六甲を考える会代表▽



神戸開港を祝って、幕末の神戸へ駆けつけ祝砲を放ったという。イギリス艦隊の旗艦ロドニー号である。その祝砲を当時の神戸っ子は、どのようにはにやにやしたのだろうか。どこかの港では、黒船の来襲かと驚いたというが、そこは開放的で明るい気質の神戸っ子のこと、物見遊山ならぬ物見遊港とばかり楽しんでに相違あるまい。

そのロドニー号にちなんだ、ロドニー賞をいただいた。元来、ドーン、ドーンと大砲を打ち放す性分らしい。もともと、自分自身では人を驚かすような大砲などとはみじんも思っでなく、日常的な活動を普通にやっているつもりなのだが、それを祝砲と受け取っていただけのなら嬉しいかぎりである。

とまれ、この賞は私個人に与えられたというよりも、「六甲を考える会」に与えられたと考える方が正確だろう。会のメンバー一人ひとり、わが街六甲をよくしようという頑張りがあったことによるものと思う。街を愉快にするということとは地

域活動を通じて、我々自身が愉快であらねばなるまい。その意味で、六甲の街は可能性にあふれた面白いところだと痛感する。

それにしても、神戸において活動しているグループは多岐にわたって活動しているし、我々よりもっと立派な活動を行なっているグループも多々見受ける。ところがどうであろうか。余りにもまじめ過ぎ、堅過ぎるのは神戸っ子に受け入れられない。この辺が、いか



11月5日受賞式が行われた(左・風月堂吉川相談役より授与)

にも神戸的ではある。神戸っ子には不思議にどこかで醒めている。執着するということがなく、カラリとしている。南向きの傾斜地で陽光が満遍のない風土によるものと推察される。

一生懸命生きている人は確かに美しいし、その姿は理屈抜きに称赞に値するのだが、それが深刻になつてくると、多くの人々は敬遠がらに見守ってしまうのも事実である。賢明すぎる為に失敗した例はなにも珍らしい現象でもない。時には意識してバカにふるまうことが必要となつてくるのだ。運・鈍・根とはよく言つたものだ。かくて、ドンキホーテ的にやつた方が成功するということを、「六甲スペイン祭」等、いろんな企画を実践していく中で学んだ。

実際、何をやるにしろ《好きこそもの上手なれ》を自ら体現できれば、それが一番幸せな人生ではなからうか。神戸の街のあちこちで、祝砲が上げられることを望む昨今である。



△その112▽

## 岡山県立美術館のゆったりした 建築に次の展開を思う

### 嶋田 勝次

△神戸大学建築学科教授▽

この頃「ポストモダニズム派」  
とも呼ばれる建築家が出て来た  
といえるのかもしれないが、それ  
らの傾向は単なるあだ花かもしれ  
ない。それよりまっとうに近代建  
築をじっくり展開しようとしてい  
る中年(?)の建築家達がいい作  
品を次々発表している。

その一人は、この前に紹介さ  
せていただいた内井昭蔵氏であ  
り、東京の世田谷美術館につづい  
て名古屋に近い一宮市立博物館の  
新作があるが、岡山では岡田新一  
氏の岡山県立美術館の堂々たる建  
築が生まれている。

岡田氏はもと岡山出身の由  
だが、独立して事務所を設立され  
るまで鹿島建設設計部に席をおか  
れ、東京の最高裁判所のコンペで  
最優秀作をとられたのを機に、新  
しい方向に転向された。この最高  
裁の建築は、正義の殿堂として品  
位と重厚さを表わす建築材料を求  
めて、外部と内部を御影石を基調  
とするみごとな石の建築を、宮城  
のお堀端に築き上げたのである。  
この最高裁建築(四九年)のあ  
と、氏は岡山でオリエント美術館

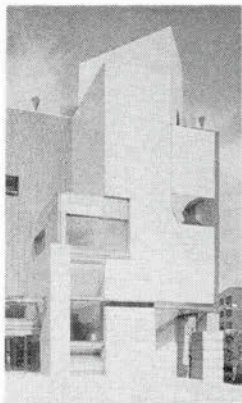
しめている。丁度この日は企画展  
としてアメリカのメトロポリタン  
美術館の風景の名作「ハドソンリ  
ヴァー派の世界」を鑑賞出来た  
が、当館の常設展での郷土作家で  
ある雪舟、宮本武蔵、浦上玉堂、

小野竹喬、国吉康雄、平橋田中、  
そして瀬戸内海の風景画にますま  
す心なごむ時を与えられた。

それにしても建築の世界には、  
芸術にふれて心暖まる造形は提供  
されるのだろうか。

このところ建築デザインの傾向  
が、ポストモダニズム的動向とは  
別に情報化に対応したようにハイ  
テク化やメタリック的指向が強  
く現われて来て、近代主義的な機械  
や機能を重視する流れが、六十年  
代以降からあえて反逆するヴェク  
トルを生みつつあり、新しいうね  
りを築きつつあるように思われる  
のだが、そのような方向はいつ明  
確になって来るのだろうか。

最近の多くの状況の変化が早く  
単純に割り切れるものではないが  
それでも息の長い様式が定着され  
るまで直ぐに早急に結論を導き出  
せるものではない。なだらかな変  
化が必要だとすれば、やはりポス  
トモダニズム派からではなく、安  
定感のある岡田新一氏などからゆ  
つたりの次の展開があるのではな  
いかと、この岡山の県立美術館に  
安心して見ながら思うのである。



▲美術館リーフレット表紙外観は西側玄関

(五四年)を建築して好評を博し  
たが、それと数十米だけおいて、  
東西並ぶように更に新しい一歩を  
踏み出したこの建築が完成した。  
出来たてのこの美術館は、万成  
石を中心とする石材をふんだんに  
とり入れたデザイン構成となつて  
おり、今日の豪華な時代の産物と  
なっていることがわかる。

更にこの玄関ホールのゆったり  
としたひろがりには、都市の喧噪  
はない。明るい吹抜けロビーには  
心安まるひとときをのんびり持つ  
ことが出来るオアシスである。

瀬戸大橋が完成し、本土と四国  
の両方で行なわれた博覧会も終つ  
て今は静かな芸術の秋、私にとつ  
ては昨日までの関東でのこまぎれ  
の学会発表も終つて豊かな時と空  
間をひとり味わえる喜びをかみ

## ガス灯・街路樹・門柱

文・写真  
林田重五郎

〔元・新聞記者〕

前回、旧居留地の古い写真4葉をのせてもらったところ、「52年前とは思えない鮮明さ」とほめてくれた人がいる。気をよくして改めて昭和11年撮影のネガ計38葉を全部中判に引き延ばした。その代金1枚200円、50年前なら給料の2倍。

鮮明なのはわたしの腕によるものではない。先輩にテストを頼まれたカメラが、当時ライカと並

ぶドイツの名品コンタックス。プラプラ居留地内をブラつきながら、パチパチとただけである。当時の給料数カ月分の名器だった。

こんど引き延ばしたのをよく見ると新発見もある。写真としての出来は別にして、あのころの街の感じの出ているのを何枚か並べて見よう——52年前の香い<sup>にお</sup>プンプンの写真を：

## ◇ ガス灯

まず写真④、右手のヤナギの向うの電柱の少し先、自転車道の右の歩道の外れにガス灯の立っているのが見える。場所

は居留地東部の伊藤町あたりと思える。当時は中央部に比べると人も車も少なかった。

ガス灯は旧居留地の象徴としてその当時から有名だったはずである。こちらは無風流なところで、探してもせず、どこどこに立っていたかの記



A・旧居留地東部の伊藤町あたりか（昭和11年撮影）

憶もない。ただ夜勤の途、神戸水上署から三宮署へ、人影もほとんどない京町を歩いてゆくと、ところどころ道を照らしてくれた白光<sup>びやう</sup>があったのを覚えている。あれはガス灯だったのか電灯だったのか不明である。わがクツの音の高さだけは現在も耳をはなれない。

いまガス灯を記念する一基が大丸の北側に保存されている。「明治7年ごろから：柱台にロンドンとある。街灯として日本では最も古い：」とある。写真④のガス灯もこれと同

じだろう。ただこの姿をうつされた昭和11年ごろには光源がガスであったのか、電気に代っていたのか不明である。

## ◇ 街路樹

当時の小生は無風流ではあったが、街路樹が年老いた姿で、あちこちに残っていたのはよく覚えている。太くなり、グネグネと車道に拡がっていたが、年輪はさすがであった。写真Aの右側のヤナギなど…。

昭和11年の写真のなかにも、たとえば写真Bなどその代表である。これはたしか播磨町の、ナカマチと交わるあたり、ヤナギの曲がり方が面白い。

写真Cは、あのころのオリエンタル・ホテルの前。この電柱の前の1本はヤナギなのか、他の街

路樹なのか、わたしにはわからない。だがホテルの形とともに、たまらなくなつかしい1枚である。当時の自動車がホテルの前に大行列、なにか会でもあったのか。

さていまやっとな気がついたのは、なぜあのころの旧居留地のブラブラ歩きが気楽であったかの理由である。写真A②③でおわकारの通り、街路樹はみな車道に植えてある。歩道は幅広く、のびのび。だからこそ歩くことが楽しかったのだ。

写真Dは多分江戸町の通りを南から北へながめたものと思われる。播磨町かとも思い、この間わざわざ調べに行ったが、この写真の正面に見える市背山の形は、二つの通りともいまは銀行など高いビルのおかげで見えないのだ。なつかしいこの通りの姿。ほんとの旧居留地の形。やはり樹木は



C・旧居留地播磨町の南の方の当時のオリエンタルホテル前（昭和11年撮影）

車道に立っており歩道はノビノビ。

いま旧居留地を歩いて見た。歩道はより広くなっている。さすが神戸だ。ただし50年前には車道走っていた自転車「歩道」を走っている。

街路樹は昔よりふえている。特に背の低いアベリヤなどが多くしかも美しい。あの中央部の、太陽神戸銀行の高層ビルの南半の周辺、建築基準法59条の2による「公開空地」とあるが、広大なサツキなどの行列にはほれぼれした。ミドリに關する限り、いまは昔に負けてはいない。

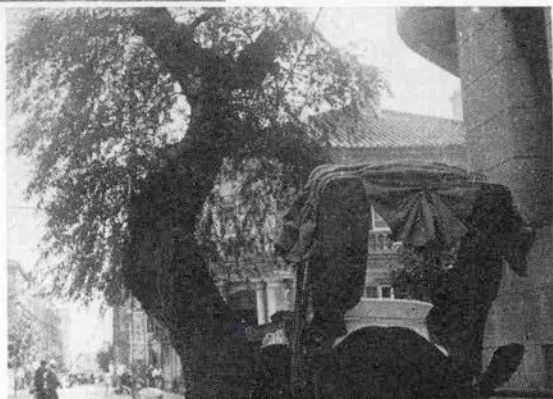
### ◇ 門柱 三拾

前回に書いた大丸東側を南下した角の昔のナショナル・シテイ・バンク・オブ・ニュー・ヨークの古い建物の復元が完工していた。し



写真左上から(昭和11年撮影)

- E・明石町あたりにあった門標
- D・旧居留地の東部、多分、江戸町の通りを南から北へながめたものと思われる
- B・旧居留地の中央部・播磨町あたり



ふい薄茶色の柱、壁。昔を思い出すに十分な、すばらしさである。

銀行名は見当らなくなつたが：

その筋向いが30番館ということは大丸北側の旧居留地の説明地図でわかる。その52年前の門柱の写真が、新しく引き延ばしたなかの1枚にあったので写真◎として、ここに、見ていただく。現在はまことにすばらしいファッション・ビルになっている。ナカマチ側の歩道から、上品な女性がたくさん出入りしていた。50年前には見られなかつた風景である。